

報告書

平成23年4月10日

萩田・榎園（宮崎）

4月10日は、前日にリーダー坂本先生（沖縄）から榎園がリーダーに萩田先生がサブリーダーを指示された。

9日に山形班が入り総勢24人の体制となった。この人数は、石巻高校避難所薬剤師会本部始まって以来の大人数となった。そして、翌日は7人になり本部始まって以来の少人数になってしまった。

前日のミーティングどおり以下の配置となった。

メロンパンチーム	2名
石巻高校診療所	1名
女川町総合体育館 J M A T	1名
女川町立病院	6名(薬局引越しのため派遣要望あり)
その他	

他は、2名ずつのペアで、最近全く訪問していなかった石巻市と女川町の避難者数200名を越える避難所を訪問し状況の把握と不足薬品のチェック、補充、避難者の健康状態チェック、衛生環境のチェックに出発した。

午後に石巻市役所に情報収集に行ってもらったり、石巻日赤病院に新たなエリア区分のデータをメモリースティックにとって来てもらったりした。

榎園は、昨日OTC薬品を補給にこられた西東京多摩医師会のJMATチームが、ポロッと言った石巻日赤病院（以下、日赤病院という）の第7エリアを回っていると言われた第7エリアが分からなかったため責任者である丹野先生にお尋ねしたところ日赤病院のエリア表を持っていらっしゃったので拡大コピーし萩田先生の判断で地図帳をコピーしそれを貼りあわせて石巻市、女川町の大きな地図を作成し全ての避難所の場所をプロットし日赤病院の1から18まであるエリアをその地図上で区分するよう石巻薬剤師会のファックスコーナーに勤務されていた女性に依頼し作り上げてもらった。

その後、たまたま萩田先生の親しいメロンパンチームの日赤病院勤務の薬剤師岩淵先生に日赤病院からもらってきたメモリースティックの最新のエリア区分A、B、Cの一覧表を確認してもらい先ほどの大きな地図上に新たな区分を書き加えた。その上今後、日赤病院のメロンパンチームからは、毎朝8時ごろ

今日は、どのエリアを巡回するかファックスで連絡してもらうことになった。

また、各避難所で不足しているOTC薬の情報をメロンパンチームからもらい薬剤師会のチームがその不足分を各避難所に届けるとともに日赤病院チームが拾い損なった患者さんの医療用医薬品についても現物または、お薬手帳で確認できた場合、日赤病院から預かった処方せんに必要な事項と処方その場で書き込み日赤病院の薬剤部に届けることになった。その患者さんの医療用医薬品は、後日、メロンパンチームが届けるというルール作りをした。これらの新たな取り決めによりこれまで以上に日赤病院の医療チームとの連携がかなり向上することとなった。

夜のミーティングにおいて日赤病院の新たなエリア区分からもれた旧11から18エリアについては、定期的に（1週間に1度くらいで）電話連絡をしてオーダーのあったOTC薬品を届けることになった。また、各避難所にも石巻高校避難所薬剤師会本部の電話番号を伝え急ぎのオーダーがあったら電話を下さるように手配することになった。

事務的には、これまで黒板を利用していた薬剤師派遣要請、OTC等の配達要請、宮城県薬剤師会へのOTC薬品、衛生材料等の発注などについて新たに専用ノートを作り様々なトラブルを回避できるよう手配した。特に避難所からのOTC薬や衛生材料などの要請は、今日必要なのか明日必要なのか入庫次第でよいのかをはっきりさせることとした。

考察

刻々と変化する医療環境・避難所状況を常に把握することが大切である。また、石巻高校避難所薬剤師会本部は、インターネットの環境がなく宮城県薬への環境づくりを要請するも難しい状況だった。今回は、山形県薬のメンバー個人のWi-Fiをお借りすることによってネット環境ができ様々な文書作りが出来たが、ネット環境がなければ外部からの協力が難しい。必要な書類作成など自宅に帰った後もボランティア協力はできるので宮城県薬に直接メールに添付して送るのも一案である。

最後に開業医、病院の診療再開、薬局の開局等の情報は、常に把握しなければ復興の妨げになることを銘記しなければならない。